

## 第 11 回 (2007 年度) 認定輸血検査技師試験の結果

平成 19 年 9 月 1 日

## 認定輸血検査技師制度

協議会 会長 神谷 忠  
 審議会 会長 浅井隆善  
 試験委員長 田崎哲典

## 1. 受験者数

- ・申請者 319 名中、欠席者 5 名で、実受験者は 314 名であった。
- ・実受験者中、新規受験者は 155 名 (48.6%)、再受験者は 164 名 (51.4%) であった。

## 2. 試験結果

## 1) 筆記試験

- ・最高点 : 85.6 (85.1)
- ・最低点 : 42.6 (40.4)
- ・平均点 : 64.1 (63.7)
- ・中央値 : 64.8 (65.3)

( ) は 2006 年の成績

## 2) 実技試験

- ・最高点 : 98.1 (99.0)
- ・最低点 : 0 (0)
- ・平均点 : 45.1 (51.7)
- ・中央値 : 49.4 (55.0)

## 3. 総合判定

- ・実受験者 314 名中、合格者は 85 名 (合格率 27.1%) であった。
- ・受験科目別受験者数 (合格者数、合格率%) は以下のごとくであった。
  - 筆記+実技 : 213 名 (34 名、15.9% (1 名は実技のみ受験))
  - 筆記のみ : 19 名 (10 名、52.6%)
  - 実技のみ : 82 名 (41 名、50%)

## 4. 試験概要と成績について

## 1) 試験概要

2007 年度試験は、8 月 4~5 日、大阪医科大学を会場に行われた。今回も申請者が 300 名を越え、また台風の影響で交通が一部混乱し、欠席者が増えるのではと心配された。しかし、各受験者とも早めに行動をとられていたようで、寧ろ欠席者は 5 名と少なく、試験は予定通り順調に終了した。なお今年も試験は分割せずに実施したので、冬季試験は行わない。

## 2) 試験成績

全体の合格率は 27.1% (85/314) で 2006 年 (27.2%、85/312) と同等であった。但し「実技のみ」の受験者の合格率が 50% (41/82) と高かったのに対し、「筆記+実技」の受験者の合格率は 15.9% (34/213) と低かった。再受験者の努力の結果と考えられるが、初回受験

者の中にも両科目とも高い得点者が少なくなかった。これは、周到に準備すれば受験回数に関係なく合格できることを示している。

## 5. 試験科目別評価

### 1) 筆記試験

平均点±SDは、64.1±7.7、合格基準値以上の得点者は48.5%（112/231）で、例年と変わりない。図1のごとく、成績は正規分布を呈しており、問題の難易度も妥当と考えられる。検査のみならず輸血臨床、血液事業に関する知識も重要である。計算問題の正答率は相変わらず低く、最初から無視してかかると、当然ながら他の問題での高い得点が必要となる。

### 2) 実技試験

平均点±SDは45.1±27.1、合格基準値以上の得点者は28.5%（84/295）で、昨年よりやや低下した。得点者分布は筆記と異なり、図2の如く著しい成績不良者が約半数を占めた。実技の平均点は、「実技のみ」の受験者が59.7点であったのに対し、両科目受験者では39.5点と、20点もの差が生じていた。日頃より輸血検査に真摯に取り組み、正確な技術を磨き、確実な知識を重ね、問題解決能力を高めていくなら、合格は難しくない。しかし、準備不足、特に3科目（血液型、抗体、カラム）とも成績のランクがE、Fの受験者は、もう一度気を引き締めて、基本に忠実に周到に準備しないと合格は難しいであろう。

＜血液型＞ 血液型の正確な判定と解釈が重要であることは言うまでもない。しかし会告V（vol. 52, No.1）に示した大減点項目に該当する答えは相変わらずである。例えば解答用紙に異なった患者名を記載する、スライド法を実施しない、RhD陰性を陽性と判定するなどである。またコメント欄が白紙の受験者は、何を書いたらよいのか分からなかったのか、それとも時間が足りなかったのであろうか。検体は3本で再検を行っても時間的余裕はあるはずである。いずれにしてもこのような受験者を認定輸血検査技師と認めることは難しい。

＜抗体＞ 患者氏名の誤記、検体の取り違いなど、大減点となる基本的ミスは殆ど見られなかった。合格者の成績は比較的良好であったが、やはり「可能性のある抗体」、「否定できない抗体」の不正解者は、合格は難しいようである。なお、IgG感作血球を入れるべき試験管を間違えている受験者がいた。基本的手技の欠如であり、日常的に輸血検査に携わり目的を理解している検査技師であれば間違えることはない。

＜カラム＞ 原理は勿論、臨床検査値や患者情報を加味しての正確な判定、解釈がポイントである。慣れてない受験者には難しい問題もあったと思われるが、全体的にはまずまずの成績であった。

## 6. まとめ

今回も合格率は27.1%と低かった。実技試験のみの受験者の合格率が50%であることから、やはり実技の準備不足が原因の可能性が高い。実技試験は日頃の輸血検査の積み重ねを示す場であり、そもそも試験の為の特別な準備など要らないはずである。

実技試験の受験者数が300名を越えている。輸血管理料の導入もあつてか、受験者数は

漸増し、それ自体は歓迎すべきことである。しかしここ数年の答案からは知識、技術共に受験資格が疑われる受験者が増えており、本年度の結果を図 2 に例示する。将来的には本試験の前に、できるだけ受験相当の能力を有する臨床検査技師のみが受験できるようなカリキュラムの導入が必要と思われる。

